

父の川寫真人氏（社会医療法人玄真堂理事長）が1981年に開業した同院の院長を務める。治療に専念する父の後ろ姿を見て、子どもの頃から自然に医師を志したという。大分医科大学（現大分大学医学部）卒業後、全国でも数少ない単独型高度救命救急センターである千葉県救急医療センターに研修医として勤務。「医療の限界を感じた一方で得がたい経験もあった」と振り返る。その後、同大学整形外科医局に入局。付属病院や米

国などで研さんを積んだ。2006年、川寫整形外科病院に入った。真人氏が注力してきた骨・関節感染症への「川寫式持続洗浄療法」と、高気圧タンク内で純酸素吸入を行う「高気圧酸素治療」を、前院長の田村裕昭回復期センター長らと継承する。同院は、外来患者を担当するかわしまクリニックと協働で、外傷や肩関節疾患、下肢人工関節、スポーツ障害、関節リウマチといった診療に取り組む。昨年4月、増築工事により

新病棟完成で地域医療を充実



川寫整形外科病院 院長
川寫 眞之氏

病院DATA

- 診療科目
整形外科・リハビリテーション科
リウマチ科・放射線科・脳神経外科
- 診療時間
月～金 / 9:00～17:30
土 / 9:00～12:00
- 休診日
日曜、祝日、年末年始（12月30日～1月3日）



心技体そろった医療の実践を目指す

回復期リハビリテーション病棟（50床）が完成した。急性期治療を経てリハビリに取り組み患者のための病棟は今まで中津市内に無く、市外の病院に転院する場合もあるため、患者や家族から困惑の声が寄せられていた。「地域・住民・患者が必要としている医療の提供という病院理念にようやく沿うことができた」と喜ぶ。

近年、福岡県豊前地域を含めた県北広域医療のあり方に危機感を持つ。後継者不足で無床診療所のみならず、有床の病院・医院も減少。各医療機関の負担が増している。「県域を越えた医療・介護の連携強化が必至。主導的に取り組みたい」。介護老人保健施設やサービス付き高齢者向け住宅、訪問看護なども手掛ける。今年が開業40周年の節目を迎える。記念誌や論文集の刊行に加え、第21回九州高気圧環境医学会の開催を計画している。「高気圧酸素治療は合併症を抱える高齢の感染症患者にも応用しやすい。臨床実績を重ねることで、治療の有用性をアピールしたい」

